

はあとふる

地域の皆さんに、心(Heart)と技術(Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌

元日や 手を洗ひをる 夕ごころ

芥川龍之介



一年の始まり、特別な一日である元日は、
すぐに夜が来ます。
何とも平和で、それでいて更けてゆくのが悔しい、
そんな気分で過ごす一日ではないでしょうか。
皆さま、明けましておめでとうございます。

旧年中は、本当に多方面の皆さまから、
さまざまご支援をいただきました。
有り難うございます。

今年も『はあとふるグループ』はスタッフ一丸となり、
地域での継続したケアに貢献したいと考えています。
私たちができる範囲は限られていますが、
信頼できる仲間と、「愛」と「敬意」と「熱意」で
つながるチームとなり、
ベストと評価いただけるケアサービスを作り上げ、
提供して参ります。

今後とも、ご理解とご協力のほど、
よろしくお願い申し上げます。

はあとふるグループ
代表 島田 永和



▲第15回はあと&はんすアカデミーにて



島田病院、八尾はあとふる病院は
『病院機能評価認定病院』です。

はあとふる グループ

医療法人(財団)
社会福祉法人
永広はあとふる



みんなで取り組む

はあとふるグループは、職員全員で「確かな技術」を「心に届く説明」で、「安全」に、そして「信頼でつながるチーム」でヘルスケアを提供したいと考えています。

それは、患者さまの「治りたい」「直って当たり前」という気持ちを受け止めながらも、医療の不確実性を知っている医療従事者として、精一杯安全で安心なヘルスケアサービスを提供したいという強い思いを持ってるからです。

私たちが組織で取り組んでいる「医療安全」についてご紹介します。

医療安全管理責任者 森下 幸子

個人のエラーから組織の仕組みへ

島田病院や八尾はあとふる病院、介護老人保健施設悠久亭では、管理職が集まり安全に関連する会議を月に1回開催し、医療事故防止のための仕組み作りを行っています。

私たちは、医療事故のほとんどがヒューマンエラー（人間がおかす誤り）に関連するものであると考えています。人はエラーを起こすものであることを知り、エラーを起こしても事故につながらないシステムの構築こそが医療事故防止であると思います。

特にヒューマンエラーは、システムや医療環境の欠陥によってもたらされた「結果」であるという認識に立ち、病院あげてシステムや医療環境の改善に取り組んでいます。

私たちが考えている 安全管理に関する基本的な姿勢

- 1 人は間違いを起こすものであるという前提で、ヒューマンエラーを誘発しやすいシステムやヒューマンエラーが発生しても、医療事故につながらないシステムの構築を図ります。
- 2 事故が発生した場合は、個人の責任追及に終止することなく、原因を分析し総合的、継続的な医療の質向上を図る体制をつくります。
- 3 医療の安全管理を推進する上で、患者さまやご家族の協力が必要です。しっかりと医療に必要な情報を提供し理解していただき、患者さまの自己決定権を尊重します。患者さまとご家族も一緒に医療参加していただけるように支援します。
- 4 全職員が患者さまの安全を最優先とする共通の考え方方にたって、組織における安全文化を構築し定着させる努力をみんなで実践します。

はあとふるグループの 医療安全の取り組み

- 1 マニュアル作成 医療安全について各部門に共通する事項と個別事項、医療事故発生時の対応方法などをマニュアル化しています。
- 2 インシデント及びアクシデントの報告制度 開院内で発生した些細なミスから重大事故に至るまで洩らさず報告する体制を作っています。報告事項を収集・分析することによって原因を究明し、システムの改善策を立案しています。このようにして重大事故の発生を未然に防止しています。
- 3 業務の標準化などの推進および継続的な業務改善 ヒューマンエラーが起こりにくいシステムを構築することを目指しています。
- 4 医薬品および医療機器・用具の安全管理 医薬品の管理体制の見直しや医療機器の管理体制の見直し、輸液の安全確保を行っています。
- 5 医療の信頼確保をするための取り組み インフォームド・コンセントの徹底と患者さまの自己決定権を擁護し医療参加できるような環境作りを目指しています。



医療安全

患者さまに
知っていただきたいのです。

私たちが取り組んでいる医療安全について、患者さまやご家族に知っていただくために「医療安全の指針」を受付や病棟に準備いたしましたので、ぜひ一度読んでいただければと思っています。その際は、職員へ声をおかけください。また、島田病院のホームページでは、「医療安全管理の取り組み」をクリックしていただくと、年間研修会の計画書や年間ひやりはっと件数などをのせておりますので、是非ご覧ください。

(http://www.heartful-health.or.jp/shimadahp/safety/s_index.html)

患者さまと共に医療安全を
推進していきたいのです。

医療安全管理の実効性を高めていくためには、医療安全を推進するパートナーとして私ども職員とともに安全管理に参加していただきたいと考えています。

患者さまおよびご家族へ 医療安全のためのお願い

- ① お名前間違いによるエラーを防止するために、外来では診察券で確認をいたします。
- ② 手術患者さま間違い事故を防止するために、病棟では手にリストバンドをつけていただきます。
- ③ 点滴などを行うときは、患者さまやご家族も看護師と一緒に間違いがないか確認をお願いします。
- ④ 点滴の終了予定時間を看護師に確認してください。
- ⑤ 他の病院で受けられている治療や飲まれている薬は、全て主治医へ伝えてください。
- ⑥ 何か不安なことや聞きたい事は、積極的に主治医へ尋ねてください。
- ⑦ 医師からの説明を受けるときは、筆記用具を準備し書き残してください。



2006年度 年間行事

4月	新入職者研修 「医療安全の基本的な考え方とインシデントレポート作成」「感染対策の基本的な考え方」と「手洗いと防護用具装着トレーニング」
5月	全職種対象研修 「2005年度のインシデントレポートの報告」と 「AEDのトレーニング」(右写真) 看護の日 「当院における医療安全の取り組み」ポスター掲示
6月	医療マネジメント学会へ参加 (医療安全管理委員長)
7月	全職員対象研修 「夏期に流行する感染症と予防策」と「手洗いと防護用具装着のトレーニング」
8月	医療安全管理ガイドライン改定 針刺しなどに関連する対策一部改訂と職員へのHBVワクチン案内 職員に対するインフルエンザワクチンの申し込み開始
9月	上期インシデントレポート集計と各部署へフィードバック 医療安全委員会・医療安全管理室・感染対策委員会の実行計画シート上期評価
10月	全職種対象研修 「法的な視点から考える医療安全」 医師・役職者対象研修 外部講師 テーマ未定
12月	全職種対象研修 「冬季に流行する感染症と予防策」
1月	年間針刺し件数集計と各部署フィードバック
3月	全職種対象研修 「労働安全」 インシデントレポート年間集計

患者さま相談窓口があります

医療安全に関連することで不安などがありましたら、お気軽にお電話を。

☎ 0120-81-0741 (担当 森下 幸子)

*不在の場合は、留守番電話にメッセージとお名前、電話番号をお願いいたします。





『患者さまを守る、そして、職員を守る。』

—感染管理認定看護師の仕事—

島田病院 感染・安全管理担当 感染管理認定看護師(ICN) 森下 幸子さん

今回は、感染・安全管理担当 感染管理認定看護師 森下幸子さんから話を聞きました。一般の方々には、馴染みの少ない資格だと思いますが、医療業界では、非常に重要視されてきている分野です。認定看護師とは、「認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者」をいいます。認定看護師資格には17分野ありますが、その中の感染管理という分野に特化したのが感染管理認定看護師 (ICN:Infection Control Nurse) です。全国的にみてもまだ少ないICNに話をききました。



『私は、小さい時から常に病院に縁がありまして…、家族や私も入院や外来でお世話になっていました。そこで看護師に会える機会も多かったこと、何か資格をとつて自立したいと考えていたことから看護師になったような気がします。これまで、様々な診療科で経験を積み、そこでの経験を生かしながら、島田病院で勤務しています。

色々な診療行為を経験する中で、常に感染は患者さまにとって脅威となりうるものでした。また、患者さま自身が気づかないで、院内にウイルスなどを持ち込み、アウトブレイク(集団感染)する事もあって『感染管理』という分野について興味を持ちました。島田病院で勤務するようになってからもこの分野への興味は尽きず、感染管理学、疫学と統計学などの自己学習を続けていました。専門資格も欲しくなり、日本看護協会看護研修学校を受験し、合格することができました。その甲斐もあって、島田病院で感染・安全管理担当として感染対策委員会、労働安全衛生委員会などへ参加し、専門的な取り組みを行っています。

最近では、院内感染や術後感染などテレビで報道される機会も多くなり、ご存じの方もいらっしゃると思います。代表的な菌として、多剤耐性緑膿菌(MDRP)、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)、ノロウイルス、インフルエンザウイルスなどがありますが、皆さんも聞かれたことがあるのではないかでしょうか。これらの目に見えないウイルスなどを多くの方々が出入りする場所(病院や施

設など)では、完全に防ぐことはできません。だから、患者さまを感染から守るために感染ルートの特定をし、院内感染の防止策の立案と現場で徹底をする事によってリスクを最小限に食い止めることがICNの役割の一つなんです。

全国に病院は9,000件以上ありますが、それに較べてICNは約390名程度と全く必要人数が足りていません。島田病院のある地域でも感染管理認定看護師が配置されている病院は少ないので現状です。患者さまがより安全に医療をうけていただけるように、認定看護師の役割を広めていかなければならぬと感じています。だから私の活動は、院内だけではありません。他の病院やクリニック、大学などで感染管理についての講演をしたり、執筆



▲感染防止お役立ちノート

活動もしています。自分の専門知識を広め、少しでも多くの医療従事者に感染対策について理解をしてもらう活動も認定看護師の役割の一つだと考えています。

少し、宣伝してもいいですか?『感染防止お役立ちノート』(学研)という本を同期の認定看護師5人で作成し発刊しました。

医療安全講習会を開催

平成18年10月14日(土)

医療の現場での 安全&AED(自動体外式除細動器)の 実技を学びました。

医療安全講習会は、はあとふるグループの職員一人一人が、医療安全について学び、緊急時には即座に対応できるような体制作りを目指しています。

今回は、森下安全管理担当より、患者様に薬を配る(配薬)時や、お渡しする(与薬)時に間違いが起きました。参加職員は、自分たちの職場でも起こりうるケースとしてとらえ、セルフリスクマネジメントの徹底を再確認しました。

また、フクダ電子の協力でAED(自動体外式除細動器)の実技指導を行いました。操作方法について説明を受けた後、参加者全員が実際に操作を行いました。最近では空港や駅・公共施設でもAEDが設置されおり、島田病院・ハ尾はあとふる病院・悠久亭にもAEDを設置してい

ます。職員全員が操作方法を学ぶことで、緊急時には即座に対応できるようにしていきたいと考えています。

はあとふるグループでは、このような研修を定期的に行い、患者さま、ご利用者さま等の安全に取り組んでいます。



AEDの実技指導風景

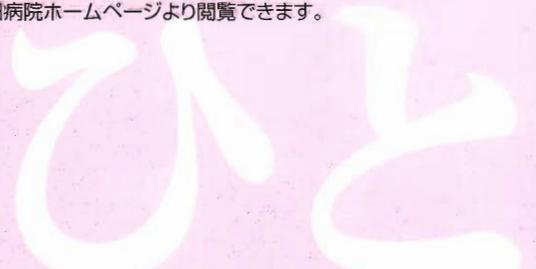
医療従事者が現場で使える感染マニュアルとして非常に役立つと好評ですよ。またメディカ出版の雑誌『インフェクションコントロール』では、実際に私の身の回りで起こった出来事を連載していますのでよかったですらご覧ください。
(もちろん登場人物は匿名です。)

感染を防止するためには、手術などの医療行為を客観的な目で見て評価する必要があります。時には現場の医師やその他の専門職と意見が衝突する事もあります。感染管理の専門として、より患者さまの安全を追求するためには、これまで正しいと考えられていた事や重要視されていなかつた事を改善していくなければならない事もあります。他の病院で勤務するICNに聞くと、病院によっては感染管理の改善に対しては、様々な抵抗勢力(小泉前首相風で)が現れて、苦労しているようです。でも、島田病院の医師を初めとする医療従事者は、感染対策に対する理解も深く、様々な面で協力してくれる非常にいい病院だと思っています。

感染対策に対して理解を示し、協力してくれる島田院長を初めとする医師や専門職種の方々にこの場をお借りして感謝の気持ちをお伝えさせていただきたいと思っています。』

感染という専門分野に特化する事を目的としたこの認定看護師制度は、今後広まって行くことでしょう。このような専門職種の活動は、診察を受ける患者さまにまでは、なかなか知り得る機会が少ないと思います。医療機関には外からは見えないところで、患者さまの安全に取り組む『人』がいる事をこの紙面で紹介していきたいと思っています。

*『医療安全管理の取り組み』については
島田病院ホームページより閲覧できます。



読んで学ぼう

整形外科の まめ知識 16

肩関節疾患のはなし-② 肩関節鏡手術の 対象となる疾患について



島田病院整形外科医長 松浦健司

前回に引き続き、肩関節鏡手術の対象となる疾患について紹介いたします。

3 腱板損傷（断裂）

肩甲骨と上腕骨をつなぐ腱板という腱が切れてしまったものを腱板損傷（＝断裂）といいます。腱板は肩関節運動時に安定して上腕骨が動くようにする働きを持っています。転倒などの外傷がきっかけで断裂することがありますが、はっきりした原因がなく、年齢的な変性で断裂することもあります。

症状は肩関節の痛みと可動域制限で、痛みは夜間痛と運動時痛があります。夜間痛は朝方外気の温度が下がる時間帯に多く、寝返りなどによっても生じます。運動時痛は肩より物を上に持ち上げるときに生じ、力が入りにくいという特徴もあります。

原因のはっきりしないもの、もしくは軽微な外傷によって生じた高齢者の断裂は手術ではなく薬や注射、適正なリハビリで症状が改善することが多く、腱板損傷という診断に至ったとしても直ちに手術を勧めるわけではありません。まずは手術をしない保存療法を行います。

しかし、2～3ヶ月の保存治療を行っても疼痛が強く、筋力低下、可動域制限が著しい場合や強力な外傷によって生じ、夜間痛が改善しない場合には手術による治療をおすすめします。手術は断裂した腱板を元の位置に縫合します。腱板の縫合には糸付きの金属製スクリューを用いることが多いです。

断裂の大きさにもよりますが、可能な限り関節鏡視下に縫合します。手術後3週間は外転装具を用いて肩を挙げた状態で固定しておきます。自分で肩を動かす練習は手術後5～6週間からで、日常生活に支障がなくなるまで約2ヶ月必要です。

4 肩関節拘縮・五十肩

加齢により肩関節の弾力性が落ちて固くなり、炎症を起こしやすくなります。炎症を起こすと肩関節の痛みと癒着による可動域制限が生じてきます。一般的に『五十肩』といわれていますが、年齢が若ければ失礼がないように『四十肩』ということもあります。

しかし、医師によってはどのような原因であっても『五十肩』と診断してしまう習慣があり、その中には肩関節のいろいろな病気が隠されていることがあります。長期間『五十肩』といわれ、治療しているにもかかわらず症状が改善しない場合は、原因をきちんと検索する必要がありますので専門医を受診された方がよいでしょう。

症状は腱板損傷と同様で、疼痛と可動域制限です。夜間痛も強く、日常生活にも支障がでます。疼痛が軽減しても可動域制限が強くなるので、適切なリハビリが必要となります。数ヶ月たってもなおってこない場合は手術をおすすめします。

関節鏡手術が優れていて、癒着を起こし固くなった関節包、靭帯をはがします。手術後早々にリハビリを開始します。



Topics トピックス

第15回はあと&はんずアカデミー

●テーマ「ホスピタリティ(おもてなしの心)」

平成18年11月19日(日)

第15回はあと&はんずアカデミー学会長 堀 幸徳

はあとふるグループでは、1年間の活動の成果をお互いに共有し、また新たな課題と解決方を探り発展へつなげる場として、院内学会「はあと&はんずアカデミー」を開催しています。この学会は今年で15回目を迎え、休日の自由参加にもかかわらず約250人の職員が参集しました。口演・ポスターあわせて38題の発表があり、あいにくの雨で肌寒い中でしたが、会場内は熱気に包まれていました。

今回の学会のテーマは、「ホスピタリティ」(=おもてなしの心)です。「おもてなし」は漢字では「お持て成し」と書きます。職種や施設の枠を越えてチームが一丸となり、心と技術を持って良質のケアを成し続けることが、私たちはあとふるグループの使命であると考えています。

理事長賞は訪問介護の介護職の発表で「難聴のご利用者との言語的コミュニケーションについて」が獲得しました。そのほか、セラピストの増員を反映してか、リハについて多くの演題が発表され受賞しました。(入賞者とその演題について触れてください)。



今後もこの学会を通じてチームの成熟度をより高め、おもてなしの心でより良いサービスを提供できるよう努めてまいります。

Infection Control Nurseの部屋 (感染管理認定看護師)

なめてはいけない?!インフルエンザ

法人事務局 感染・安全管理担当
感染管理認定看護師 森下 幸子

厚生労働省は今年度の標語を『守って防いでインフルエンザ～ワクチン・手洗い・うがい・マスク～』と上げ、重点的に対策を国民へ呼びかけています。

インフルエンザの流行時期は、4月までといわれていますので、これからが気を許せない大事な時期です。

「インフルエンザのワクチン効果は100%でないから予防接種をしない」という意見を聞くことがあります。日本におけるワクチン効果の研究では、65歳以上の健康な高齢者が接種した場合、約45%の発病を阻止し、約80%の死亡を阻止する効果があったという報告があります。小児については、1歳以上6歳未満の幼児では発病を阻止する効果は約20～30%でした。1歳未満の乳児では対象症例数が少なく、効果は明らかでなかったという報告があります。ですので、できるだけインフルエンザワクチンを接種することをおすすめします。

ポイント! インフルエンザ予防方法

- ①帰宅時の手洗い、うがい
- ②流行前のワクチン接種
- ③適度な湿度の保持
- ④十分な休養と栄養摂取
- ⑤人混みや繁華街への外出を控えること、外出時のマスク着用



ひとりごと

新年あけましておめでとうございます!
来月は、日本環境感染学会で新しい感染管理の知識を修得してきます。
場所は、横浜なので決して中華街を目的にした旅行にならないように肝に命じたいと思います。

はあとto ハート

インフォメーション

<使命>
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

<職員憲章>
私たちは、その人が
その人らしく自分の人生を全うすることを
心(Heart)と技術(Hands)で支援します

はあとふるグループは、個人の価値観を尊重し、
その人の「自立」や「その人らしく生きること」を支援する
ヘルスケアサービスを提供します。

第13回スポーツ選手・指導者交流会

特別講師にスポーツ内科医の賀来 正俊先生をお迎えし、「スポーツスランプについて」ご講演をいただきます。賀来先生は「スポーツ内科学」を日本で初めて構築された方です。かつては陸上競技短距離選手で100m11秒2の記録を有する快速ドクターです。

オリンピックやワールドカップ、世界選手権、Jリーグなど約30競技種目選手の主治医であり、「たけしの本当は怖い家庭の医学」など、数々のTV番組に出演や資料提供をされています。貴重なお話を聞くことのできるチャンスです。
陸上競技を始め、あらゆるスポーツを行っている方、指導されている方、ぜひご参加ください。

●開催日時 平成19年2月3日(土)

開場16:00 開演16:30 懇親会19:00(21:00終了)

●会 場 都ホテル大阪 4F 大和の間

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町6-1-55

☎06-6773-1111(代表)

アクセス:近鉄上本町駅/隣り

地下鉄谷町線・千日前線谷町九丁目駅より徒歩5分

●プログラム

16:00 受付開始

16:30 投球障害のリハビリテーションについて

講 師 医療法人 永広会 島田病院

理学療法士 溝口 大五

17:00 特別講演『スポーツスランプについて』

講 師 スポーツ内科医 賀来 正俊

賀来医院院長

KOBE SPORTS ACADEMY代表

19:00 懇親会

●定 員 150名(予約制)

●参加費 一般3,000円 学生2,000円

資料・懇親会飲食代含む(当日、受付にてお支払い下さい)

●お申し込み・お問い合わせ

第13回スポーツ選手・指導者交流会事務局

(はびきのヴィゴラス内)

TEL/FAX:072-953-1007

●お申し込み閉め切り日

平成19年1月27日

島田病院ホームページ

<http://www.heartful-health.or.jp/shimadahp/shimadatop.htm>

からもお申し込みができます。

(トップページのインフォメーションからアクセスしてください)。

ヴィゴラス競技別教室

お申し込み・お問い合わせは

島田病院地下一階

はびきのヴィゴラスまで

TEL/FAX 072-953-1007

Eメールでのお申し込みは
vigorous@heartful-health.or.jp

日 時

テ マ

講 師

「バスケットボール」

~正しいジャンプ動作について~

参加費:1人1,050円(税込)

当日、受付にてお支払いください。

当日は実技も行います。運動の出来る服装、
シューズをご持参ください。

(更衣室はご用意しております)

理学療法士 丸山 良子

トレーナー 大西 敏之



はあとふるグループ

●医療法人(財團)永広会

☎072-953-1001

島田病院 ☎072-953-1007

Eudynamics はびきのヴィゴラス ☎072-953-1002

介護老人保健施設 悠々亭 ☎072-953-1003

在宅介護支援センター 悠々亭 ☎072-953-1004

介護サービスセンター ゆうゆう亭 ☎072-953-5514

〒583-0875 大阪府羽曳野市櫻山103-1

ヘルバーステーション 悠々亭 ☎072-953-1052

訪問看護ステーション ハートパーク はびきの ☎072-953-1004

〒583-0832 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 ☎072-999-0725

介護サービスセンター はあとふる ☎072-999-8126

〒581-0818 大阪府八尾市美園町12-18-1

●社会福祉法人 はあとふる

高齢者生活福祉センター ゆうゆうハウス ☎072-931-1616

〒583-0875 大阪府羽曳野市櫻山96-10